

内實者、又或有内虚者、各任其所好、

〔千家茶事不白齋聞書〕火箸之事

一爐は桑柄火箸二通り利休好、大小は六角なり、老人用、風呂象眼入利休好、鐵はり貫同好、眞鍮椎實頭宗全好、眞鍮耳づく頭如心齋、其外風爐は何れなり、共かねの火箸用、長火箸爐二通り、輪の頭、けしの實頭、兩頭共鐵竹の皮に而卷、風爐長火箸、鐵張拔長きもの也、

〔茶道筌蹄^三〕同取^{○炭} 小道具

火箸 サハリ、炭カ、リなきは飾火箸、炭取へは桑柄を用ゆ、サハリは紹鷗の所持、寫し、椎頭紹鷗所持は當時平野にありといふ、

石蠶子^{チヨウロクギ} 利休所持、鐵の象眼、千家に傳來す、

鳥頭 角鷗の形なり、如心齋好、眞鍮火箸の表裏の分るために好みしなり、

椎頭 眞鍮サハリ寫し

桑柄 利休形、金の所を袋に仕たるもあり、

鐵張 利休形、風呂に用ゆ、

〔南方錄^三〕火箸

火箸、爐には桑の柄を用ひ、風爐にはかねの火箸よし、

〔茶之湯六宗匠傳記^五〕小堀遠江守宗甫公自筆の寫

一冬はぬり物の香合、柄付火筋、夏は染付の香箱、さはり火箸、もしは袋火筋もよし、

〔茶道要錄^上〕炭之事

一火箸之事、大中小各形アリ、共ニ桑柄也、必ズ瓢ニ用ユ、是冬ノ用具タル故也、瓢ノ大ニハ大ヲ用ユ、三段各如此、籠ニハ打延ト云テ、柄ナシニ鐵ニテ作ル、是又形アリ、必ズ夏用之、